



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



岡山県マスコット
「ももっち・うらっち」

R8年度 第2号①
津山教育事務所 7月

R8年度 1回目AP訪問を振り返って

令和8年度1回目のAP訪問では、大変お世話になりました。1回目を振り返り、①各校がどのような**課題意識**をもち、その解決に向けて取り組んでいるのか、②その進捗状況(**成果や課題**)、③**今後に向けて**何を大切にしていきたいかをまとめてみました。

学校の 課題意識

学校の実態に即して 何が本当に学校を前進させる課題なのか
見極めていくことが大切です!



主体性に関する課題意識：「主体性とは」「委ねると放任の違いは」「自律的な学びとは」「伴走者としての教師像は」「自由度とは」という根本的な問いから、子ども・教職員・管理職それぞれの主体性の在り方が問われている。

授業の本質に関する課題意識：「本当に子どもたちに力がつく授業になっているのか」「目指す子ども像は」「何のために何を委ねるのか」といった、目的意識に立ち返る問いが重要視されている。また、「各教科を学ぶ本質的な意義は」「見方・考え方を働かせるとは」等、深い学びにつながる教材研究・単元構想が問われている。

「委ねる」「見通し」「対話」「アウトプット」等に関する課題意識：「子どもの～したいを引き出すには」「委ねる前にすべきことは」「解決の見通しをどう持たせるのか」「自己選択・自己決定・自力解決の場をどう設定していくか」「対話的な学びでどう深めるか」「話し合いの視点をどう持たせるか」「聴き合う・伝え合うとは」「小規模校での対話の充実とは」「振り返りをどう生かすか」といった、具体的な指導の在り方が問われている。

人材育成に関する課題意識：「若い教員をどう育てていくか」「組織的に進めるには」「語り合う職員集団を目指して」「よいモデルを校内でどう広めるか」等、どう「人を育てる」のか、どう「人を活かす」のかが問われている。



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



岡山県マスコット
「ももっち・うらっち」

R 8 年度 第 2 号②

津山教育事務所 7 月

成果と課題

①

【全指導場面で】「子ども真ん中」発達支持的生徒指導を内在化

自己存在感の感受への配慮
自己決定の場の提供

共感的な人間関係の育成
安全・安心な風土の醸成

★学びの基盤づくりを学校全体で意識して取り組んでいる。

・間違いや失敗を大切にする授業づくり、自己選択・自己決定の場の確保、安心して発言できる（わからないが素直に言える、教師や友達の話や考えを大切にする）人間関係や風土を醸成している。

▲**落ち着いた学習環境**：児童生徒との人間関係を築くことができず、落ち着いた学習環境を整えることに苦慮している学級（学年）がある。

⇒学年担任制、管理職や先輩教員のサポート体制、初任者指導員や授業改革推進員、特別支援コーディネーターのアドバイス、保護者との連携、県総セのコンサルテーション、教育支援員配置等、実態に応じて具体策を講じている。

成果と課題

②

1_単元を**学ぶ意義**と**ゴールの姿**

2_目標達成に向け**焦点化**した単位時間ごとの**学習活動**

を**児童生徒**と
共有する

★重点項目を教職員間で共有し、同じ方向で実践している学校が増えている。

- ・単元の見通しや本時のゴールイメージを子どもと共有している。
- ・本時のねらいが明確で、既習事項、振り返り、生活体験等を取り入れた導入の工夫がみられる。
- ・自己選択・自己決定・自力解決（自ら考える）の場を確保している。

▲**自律的な学びへの到達**：導入での工夫は広がっているものの、解決に向けた見通しを子ども自身に持たせる場面が弱く、自律的な学習にまで高められていない場合がある。





校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



岡山県マスコット
「ももっち・うらっち」

R 8 年度 第 2 号③
津山教育事務所 7 月

成果と課題

③

資質・能力の「一体的育成」を意識した授業づくり

★単元構想をもとに、本時は「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」のどちらに重点を置いているのか、その意図が見える授業が増えてきている。

○人材育成を図るため、講師を招聘して基礎となる教材研究の仕方から研修を行っている。

○小学校算数の指導改善に向けた教師の学び～5つのステップと3つのポイント～を参考に、具体と抽象の往還を意識した授業実践を進めている。

○主体的・対話的な学びを意図した授業展開が増えてきている。

▲一方で、深い学びに向けての課題が見えてきている。

- ・導入段階での問題への関わり方や意欲の持たせ方、振り返りの生かし方が不十分だったり、話し合いの視点が曖昧だったり、展開における見取りが不足していたりする。

- ・そのため、多様な考えを引き出すことができず、豊かな話し合いにつながらないといった課題が見える。

○▲細やかな支援を行う一方で、「支援過多」が子どもの主体的な学びを妨げている場面も見受けられる。



★「子どもがどう変わったか」「それはなぜか」という視点で語り合う「事実解釈型」の授業研究を進めている学校が表れている。

○AP訪問において、面談、授業、協議題が子どもの姿でストーリーが見える学校は、方向性が明確で授業改善が進んでいる。

○人材育成を図るため、意図的に出張視察を計画し、よい授業を見て自校に（自分自身に）還元する取組を進めている。

▲管理職が個々の教員の取組を尊重しすぎるあまり、組織的な改善（学校力の向上）に繋がっていないケースが散見される。



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



岡山県マスコット
「ももっち・うらっち」

R 8 年度 第 2 号④
津山教育事務所 7 月

成長し続ける
学校を目指して

学校の本質課題を問い続け その解決にむけて 真正面から向き合い挑み続けていきましょう!

「問い続ける」姿勢：ビジョンを共有しつつ、持続可能な学校づくりのために、「今、真に向き合うべき課題は何か」を管理職自身が問い続け、学び続ける教職員集団を育成していくことが大切です。

「相似形」の意識：「子どもの学び」と「教員の学び」は相似形であることを意識し、教職員が対話を通じて学び合い、やりがいを持てる組織づくりが基盤になります。

「ベクトル合わせ」と「自由度」：「自由度とは」ビジョン実現に向けて自ら考え判断し行動する「責任」だと定義することが大切です。教員と子どもも同様です。例えば、子どもが自己選択・自己決定する場合も、何のためにそれを選ぶのか責任を持たすことが重要です。

「観」の転換：「教え上手」から「学ばせ上手」へと教師の観を転換し、子どもの問いと思考を真ん中に置く授業デザインに挑戦していく必要があります。

「分析と検証」の徹底：夏季休業中に1学期の取組を分析・検証し、中間期に向けて具体的な手立ての共有とイメージの明確化を図ることが求められます。学校の課題を整理し直し、その課題解決に向けてどのような過程で進めるのか、目的と手段の明確化(言語化)を図ります。

「見取りと価値づけ」の強化：子どもの思考を正確に捉える「評価力(見取り)」と、その姿を意味づけ価値づける「フィードバック力」を磨くことが重要になってきます。

アクションプラン(AP)の取組、学校経営等でお困りのことがありましたら、ご遠慮なく
アドバイザー **金田**までご相談ください。

連絡先:津山教育事務所義務教育支援課学力向上班 TEL (0868) 24-8705

